



「シルバーカレッジ前」 絵画ボランティアグループ 美工 29 期 小谷 勝

—目 次—

2～6	第27回ボランティア活動報告会
7	神戸2024世界パラ陸上ボランティア体験談
8～9	第29回学園祭に向けて
10～11	先生インタビュー：共通授業 川邊 暁美 先生・音楽文化専攻 松村 公彦 先生
12～13	サークルだより
14	教室だより：音文30期・食文30期・園芸30期
15	トピックス・文芸サロン
16	グループわ だより・図書室だより・編集後記

情報誌編集委員会では、カレッジ内外の活動も含めて写真・記事の投稿をお待ちしています。
「爽風」への情報提供・ご意見は、次のホームページ「☞お問い合わせ」からお寄せください。
<https://ksc-sofu.net/> スマホからは右のQRコードを読み取ってアクセスできます。



第27回ボランティア活動報告会（6月12日）

はじめのこたば

ボランティアセンター代表 稲積 義則

本日は、「第27回ボランティア活動報告会」にお越しいただきありがとうございます。また、ご多忙の中、ご来賓として、神戸市社会福祉協議会の垂水区および西区のボランティアセ



ンターからご臨席いただいております。そして、シルバーカレッジからは、黒田常務理事にご臨席いただいております。この場をお借りして厚くお礼申し上げます。

シルバーカレッジには、26のボランティアグループがあり、それらグループがボランティア活動を円滑に行えるよう支援する組織としてボランティアセンターが設置されています。ボランティアセンターは、阪神淡路大震災でのボランティア活動をきっかけに組織化され、「再び学んで 他のために」という建学精神を実践する場として学生により運営されています。そして、先輩方から引き継いできて、29年の歴史を持っています。

これらボランティアグループには半数以上の学生が所属し、趣味や得意なこと、好きなことを活かしながら、地域、学校や福祉施設で活動しています。全国の同様な学校でもほとんど例を見ない素晴らしい取り組みだと言われています。また、昨年度は、延べ13,000人を超える学生が383の施設を訪問してボランティア活動を行っており、ものすごく大きなパワーを持った組織になっています。これは、シルバーカレッジの誇るべき特色であるとともに引き継いでいくべき伝統になっていると思います。

本日は、これらボランティアグループの日頃の活動状況の報告を、パワーポイントやステージでの実演により行います。この報告会を機に、ボランティアグループにまだ入っていない方は、ぜひ自分に合ったグループを見つけていただきたいと思います。また、既にボランティアグループに入られている方は、仲間を増やして、ボランティアの輪をさらに広げていただきたいと思います。

それでは、今日1日、ボランティアグループの日頃の活動の様子・成果をご覧ください。

以上で、私からのあいさつとさせていただきます。

常務理事あいさつ

こうべ市民福祉振興協会 常務理事
(シルバーカレッジ担当) 黒田 徹

第27回ボランティア活動報告会の開催、誠におめでとうございます。



ボランティアセンター稲積代表をはじめ、報告会の開催にご尽力をいただいた皆さま方に感謝申し上げます。

ボランティアセンターは、神戸市シルバーカレッジの開学2年目に発生した阪神・淡路大震災の際に、しあわせの村が災害復旧・復興拠点となったことから、当時、学生の皆さんもご自身が被災した状況にもかか

わらず、立ち上げられた活動が原点であるとお聞きしています。

その活動は、震災後約30年を経過した現在のシルバーカレッジの学生の皆さまにも受け継がれ、さまざまなボランティア活動を実施していただいております。こうした取り組みは他の同様の生涯学習機関ではあまり例を見ない、神戸市シルバーカレッジの特徴的なものとなっています。

この報告会でボランティアグループ相互間の連携がさらに深まり、ボランティアセンターの活動が今後ますます発展されますことを願っております。

本日はお招きいただき、ありがとうございました。

おわりのこたば

ボランティアセンター副代表 塚田 玉樹

第27回ボランティア活動報告会を無事に終えることができましたこと、皆さまに心よりお礼申し上げます。黒田常務理事



をはじめ神戸市社会福祉協議会の方々にもお越しいただき、参加26グループがステージで披露した熱の入ったパフォーマンス、あるいはふれあいホールでの作品の紹介や販売などを通して、日頃の活動の成果を多くの皆さまに発表することができました。

事務局の皆さまを初め多くの方々のご支援にも心より感謝申し上げます。参加いただいた各ボランティアグループの皆さまも本当にお疲れさまでした。

私が所属しております「あかりの会」もおおむね月1回のペースで市内の障がい者施設などを訪問し、紙芝居や絵本の読み聞かせを行ってきました。

この5月にも北区の障がい者施設を訪問しましたが、4月に入学したばかりの6人の新入生が参加してくれました。初めてのボランティアの感想をそのまま紹介します。

「緊張より楽しさが勝りました」、「喜んでいただいている皆さまの姿に私も引き込まれ、つい写真を撮るのを忘れることもありました」、「私も楽しみました。利用者も楽しんでもらって良かった」、「演じているメンバーの皆さまもとてもいい表情をされていた」、「楽しい時間を持つことができました」。

皆が自発的にボランティアに参加し、楽しかったという感想を寄せてくれたことがとても印象的でした。自分のしたことが、皆に喜んでもらえる、笑顔に出会える、それを実感できたことが、自然に楽しかったという表現に繋がったのです。

ボランティアの語源はラテン語の「VOLUNTAS（意思）」。「意味は「自分の意思で自ら進んでやること」だそうです。即ち、自発的な意思で人や社会に貢献することがボランティアなのです。地域のため、他のために活動して頑張ることはもちろんですが、それを義務的に捉えることなく、自然な気持ちで楽しいと感じて取組めることがあるべき姿なのです。

私たちの役割は、活動を通してより多くの人々が新たに取組むきっかけを提供し、ボランティアの楽しさを共有することだと思います。本日の報告会もその一助になればと思います。

本日も参加いただいた皆さま、本当にありがとうございました。

ボランティア活動報告

KSCスポーツ吹矢グループ

健康30期 笠原 ふじゑ

スポーツ吹矢は、日本古来の吹矢に腹式呼吸を積極的に用いる健康法を融合させた、競技性とゲーム性のあるスポーツです。その効果は心身の健康はもとより、美容面から社会性にいたるまで、シニア世代にうれしいものばかりです。また、性別、年齢、体力による格差が少なく、誰でも手軽に楽しめることから、しあわせの村の子供向け行事や中央区社会福祉協議会依頼のイベントに参加して好評を得ました。ボランティア活動では、感染防止に配慮して市販の吹矢セットを使用しました。



報告会当日の吹矢体験会は30人の参加で大盛況でした。今後もグループ員一同楽しみながら活動していきます。

ケナフの会

健康30期 池田 辰弥

ケナフの会はケナフを種から育て、花は染物、樹皮は紙漉き、茎芯部は炭にといろいろと活用しています。

ボランティア活動報告会では、パワーポイントによる活動の紹介、ケナフ製品の販売、紙漉きの体験教室を行いました。例年のケナフ染の手提げ袋に加え、今年は茶をパウチしたり、ケナフ炭、竹炭はカップに入れたりなど販売に工夫をして好評を得ました。紙漉きコーナーでも皆さんに作品作りを楽しんでいただきました。報告会の後、ケナフの苗を定植したので、秋には成長したケナフが見られると思います。



NPO法人グループわ

グループわ 広報 中塚 賢

グループわは、シルバーカレッジの「再び学んで 他のために」の精神を実践するシルバーカレッジ卒業生と現役生の皆さんが活動する団体です。

令和6年の会員数は、1,154人(7/15現在)で、9つの区会と5つの部会に属する48グループが演奏・演技・創作活動、施設訪問などのボランティア活動をしています。また、自主事業として「カブトムシ生育観察会」や「夏休み工作塾」(神戸市教育委員会・こうべ市民福祉振興協会後援)の実施、しあわせの村まつりの「HAPPY縁日・屋台」への出店、教育委員会からの委託事業の「学校園支援」、会員に向けての「グラウンドゴルフ大会」、「野鳥観察会」の開催など幅広い活動をしています。皆さんも一緒に活動しませんか！



KSC人形劇「ゆめ」

国際29期 小林 孝志

今年のボランティア活動報告会では、今年の学園祭でデビューした「鬼の忘れ物」を皆さまに楽しんでいただきました。現在部員7人ですが、にぎやかに活動を行っています。今後の新作としては、「三匹のこぶた」と「ききみみずくん」を予定しております。

人形劇は、演者だけでなく、大道具、小道具、人形の衣装作りなど、いろいろな作業も大事な仕事です。限られた時間内に一つの作品に仕上げていく過程は、人形を操る以上に楽しい時間でもあります。皆さまに人形劇を楽しんでいただけるように部員一同頑張ります。人形劇と一緒にやってみたい方いつでも大歓迎です。



KSC男声合唱団

音文30期 佐々木 保磨

介護・身体障がい者施設などで訪問演奏、学園祭・区民コンサート・日台交流コンサートで演奏しました。令和7年4月には第9回定期演奏会(神戸文化ホール)を開催します。

練習日は毎週木曜、「たんぼぼの家」やひよどり台会館で約3時間。指揮は石原祐介先生、ピアニスト阪田みゆき先生、客員指揮は斉田好男先生にご指導を仰いでいます。

団員数は学生6人、卒業生44人。平均年齢は78歳。男声合唱特有の和音と倍音の奥深い響きとハーモニーを目指し、加齢を恐れず Joyful retire! しています。



KSCマジック同好会

健康30期 日下 敬司

今年のボランティア活動報告会では、新たに入会された会員7人もマジックを披露し皆さまに楽しんでいただきました。

KSCマジック同好会は、カレッジ行事以外では福祉施設や児童館などへの訪問演技を行っています。

昨年度は7回のボランティア活動を行いました。今年度は昨年を上回るペースで出演依頼が来ています。例会では、OBに協力いただきながら技術の習得に努め、今後も楽しいマジックを広げていきたいと思っています。



混声合唱団コーロKSC

生環30期 川口 年秋

混声合唱団は31期生の入団により180人を超える大所帯となりました。コロナ禍のため控えていた高齢者施設への訪問を昨年秋より再開し、11月には合唱団創立30周年を迎え、その節目となる年に定期演奏会を4年ぶりに開催。本年のボランティア活動報告会では日頃から施設訪問などで歌っている曲、広い地球上での出会いに感謝「君に会えてよかった」、人生と言う名の旅「ヘッドライト・テールライト」、100年以上前から歌い継がれる「ゴンドラの唄」、朝ドラでお馴染み「東京ブギウギ」を披露しました。いかがでしたでしょうか？

大人数での合唱は想像を超える喜びがあります。私たちと一緒に歌いませんか？



KSCアロハハワイアンズ

音文30期 芝 則子

今年のステージはダンス9人、バンド9人の総勢18人で「パーリーシェルズ」「ケアロハ」「ノリエ」「カイマナヒラ」を披露しました。私たちは練習の成果を見て楽しんでいただくのを何よりの喜びとしています。神戸まつり、盲導犬デーin神戸、きたたままつりなどの大きなステージの他、1年を通じて介護施設などの訪問活動も積極的に行なっています。今後のステージ情報は当サークル掲示板をご覧ください。新入部員も増え、今年度も部員一同ますます精進いたします。



あかりの会

健康30期 塚田 玉樹

「あかりの会」は朗読を中心に活動しています。今年のボランティア報告会では「羊たちの憂うつ」と「小さな駅の待合室」という2つの物語を演じました。ピンマイクを活用して、動きのあるステージにも挑戦し、新たなスタイルの朗読劇を楽しんでいただけたと思っています。また、ボランティア活動にも積極的に取り組んでいます。おおむね月1回のペースで北区の障がい者施設や児童福祉施設を訪問し、紙芝居や絵本の読み聞かせを実施し、ときにはハーモニカクラブとのコラボで施設の皆さんと楽しいひとときを過ごせるよう活動してきました。



手話ソング

生環29期 木村 泉

ボランティア活動報告会では、皆さまに馴染みのある3曲を発表しました。「ふるさと」「上を向いて歩こう」「しあわせ運べるように」です。客席と一緒に「ふるさと」を手話ソングで歌うと会場の雰囲気がとても穏やかになり、懐かしい思い出がよみがえ

るような心地よい時間を過ごすことができました。楽しい歌、懐かしい曲を表情豊かに表現して、楽しんで行きたいと思います。



KSC民謡同好会

美工30期 岡野 光子

演目は、「灘の酒造り祝い唄」「よさこい鳴子踊り」で、観客の皆さんの手拍子と地方のお囃子、ゆずの会の踊りでとても楽しい民謡になりました。「いつでも、どこでも、だれとでも」楽しめる民謡です。民謡はだれの心にも何かしら懐かしさ呼び起こします。

九州炭坑節の盆踊りにも50人近くに参加していただき、とても盛り上がりました。「よかったよ」のお声かけはとても励みになりました。本当にありがとうございました。



KSCフォークダンスグループ

生環30期 中塚 咲子

こんにちは。フォークダンスグループです。40人のOBの方に見守られて踊っています。新入生歓迎の中庭パフォーマンスができなかったにもかかわらず3人の新入生が入りました。OBの方が衣装や靴のお世話をしてくださって、すぐにグループになじんでいます。難しい曲を踊ることで脳と身体を活発に動かしてOBの方のようにいつまでも、可愛い衣装で踊りたいです。学園祭では、楽しみながら踊っていきます。男性の方も一緒に踊りませんか。クリスマスパーティーに参加しませんか！



KSCハーモニカグループ

国際29期 水谷 忠清

ボランティア活動報告会は、日頃の活動を発表する場となり、「われは海の子」「思い出のアルバム」「昂」「上を向いて歩こう」を演奏し、アンコールもあり「故郷」の曲を会場の皆さんと一緒に合唱し楽しんでいただきました。

当日初舞台で演奏した新入部員は「大変緊張しましたが良い経験をさせていただいた」と感想を寄せてくれました。

ハーモニカグループはボランティア施設訪問や学園祭に向かって新しい曲目を練習中です。3年生10人、2年生2人、1年生2人で楽しく練習を重ねています。



国際交流友の会

国際30期 寺沢 優一

今年もPHD協会が輸入した東南アジアや東アジアで製造された商品を委託販売しました。タイのコースターやお箸袋、インドネシアのカードケース、ウズベキスタンのヘアバンド、ネパールのランチョンマット、ミャンマーの生地など各国の特徴を良く表した製品でした。

この収益は現地の医療・公衆衛生・教育の強化のために使われ、現地の雇用と収入に繋がります。また、PHD協会の活動内容や研修生の様子をポスターやパンフレットでPRして、活動援助に繋がるようにしました。



絵画ボランティアグループ

美工30期 江崎 登夫

“一緒に絵を描いて、生涯の趣味に！”。

絵画ボランティアグループでは、1年生から3年生まで約60人の会員が月3回土曜日にしあわせの村の施設を利用して静物画、風景画、人物画を水彩画、油絵、鉛筆画などの技法で自由に作品制作に取り組んでいます。例会や講評会では基礎から先輩講師の指導を受け、初心者の方でも技術の向上が図れます。そして高齢者の絵画補助などの活動に活かしています。



完成し講評を受けた作品は、学園祭などの学内イベントや、アートホール神戸などの村外の展示会に出展ができて、多くの方に鑑賞していただいています。

絵画は楽しい生涯の趣味として取り組んでいけるとともに、卒業後も仲間と一緒に創作活動を継続できます。

陶芸ボランティアグループ

美工30期 内田 裕幸

当グループでは、昨年、先輩方が再開したボランティア活動を受け継ぎ、「ケアプラザそよ風ながた」（デイサービス施設）でお皿などの作陶のお手伝いをしました。皆さんには手びねりでの器の形づくり、絵付けをしていただき、我々はサポートをして、ようやく16点の作品が完成しました。これらの作品は、新長田での夏のギャラリー展で展示しました。作っている時、出来上がった時の皆さんの楽しそうな笑顔は今後の活動の大きな励みになりました。

ボランティア活動報告会では、活動状況を報告するとともに、日頃の研鑽の成果である作品の展示、毎年人気のある箸置きなどの販売を行いました。今後も陶芸技術を研鑽するとともに、ボランティア活動を継続してまいります。



「ガーデニング」グループ

園芸30期 小玉 俊夫

「花と緑を愛する人々に癒やしと感動を」。

ガーデニンググループでは、3月に種まきをし、花や野菜の苗を育ててきました。卒業生のグループ「オルレア会」が育てたものと合わせて約50種類、1,500鉢ほどの苗を準備しました。

前日の準備から花の名前や育て方を確認するなど和やかにスタート。当日は、開店前から多くの人々が並び順調な出だしでした。

ちょうど開花期のマリーゴールドやペゴニアなどが人気で、たくさんの苗をかごに入れた人にも笑顔の花が咲いていました。



ボランティア・グループ「こども文化」

健康29期 有馬 弘美

ボランティア・グループ「こども文化」です。恒例の七夕笹飾りを今年もカレッジのふれあいホールに設置しました。

4本の笹にOBの「むかしあそび研究会」の方にも手伝っていただき飾りつけをしました。昨年、短冊に書いた願い事が叶った(?)との噂を聞きました。

さて、これからは夏休みに入ります。OBの方たちと一緒に児童館や学童保育所などに出かけ、手作りの「ブンブンごま」「紙トンボ」「あやとり」等々を子供たちに教えて一緒に遊びます。

初めはできなかった子供たちのできた時の顔は最高です。とても楽しいひと時を過ごさせていただけます。



KSC書道部

生環30期 松浦 千恵子

KSC書道部はOBと在学生がともに活動しています。師範資格を持つOBを講師として作品の添削指導を通して書の研鑽に励んでいます。この師範資格を持つOBが中心となって、市内8～10か所の高齢者施設、児童館を定期的に訪問し習字教室を開催しています。昨年度は延べ166回、参加者235人を数えました。

参加者の作品は2月にしあわせの村本館ギャラリーで開催する書道展において書道部員の作品とともに展示します。これからも施設入所者の精神面および身体面の機能向上、また児童の書への導きを旨として施設から感謝されるような活動を続けていきたいと思っています。



ボランティア・クッキーの会

健康30期 齋藤 京子

ボランティア・クッキーの会は原則月1回の活動です。例会の前半で施設などに届けるクッキーを作ります。

ボランティア報告会では、作製したクッキー、パルミエを皆さんに買っていただき、クッキーづくりの資金ができました。これからも多くのクッキーを施設などにお届けし、喜んでいただきたいと思います。

また、例会の後半では、お菓子作りを楽しんで学んでいます。



シルバークーキの会

健康 30期 松田 秀一

今年もボランティア活動報告会では、ココアケーキを販売しました。1年生の協力もあり、午前中に500個余りを完売できました。ありがとうございました。

今回は物価高の影響もあり、原価率を計算して試作にチャレンジしましたが、最初の試作品は、おいしいものでなく不評でした。そこで原価を見直して再チャレンジし、やっといいものができたと自負しています。

10月の学園祭に向けて、もっとおいしい・いいものができるように、頑張っています。

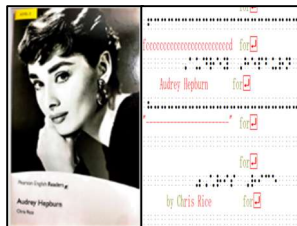


KSC英語点字グループ

生環30期 井上 薫

英語点字グループは、国内外において点字本を必要とする人たちのために、世界の名作を英語点訳し、製本して寄贈する活動を続けています。

昨年は、26作品49巻を東南アジアの11か国に寄贈しました。現役生は月3回の例会とOBも含めた月1回のグループ会を行い、日々、英語点字翻訳の技術の習得・向上に努めています。これらの活動を通して、本学の建学の精神に通じるボランティア意識を高めることにもつなげています。



KSC茶道部

国際30期 成田 実

茶道部のボランティア活動は毎月3回、高齢者の介護施設の皆さまに薄茶と和菓子を楽しんでいただき、お点前を披露させていただいています。また、留学生の方々にはPHD協会と国際交流友の会とも協力し日本文化（お茶席）の紹介もさせていただきました。



このたびのボランティア活動報告会では153人の方々と和室のお茶席にお迎えできました。

現在、部員数もOB支援者を含め29人となり、これからますますお稽古に励み、ボランティア活動に取り組んでまいります。

ボランティア木工グループ

生環30期 中川 政也

木工グループの現役生およびOBが制作した木工作品約350点以上を展示・販売し、151点を購入していただきました。14人の新入会員制作の鍋敷きも完売に近い状態でした。手作り感あふれる作品や木の暖かさを感じさせる作品など、OBを含めた販売員の絶妙な話術もあり、販売数が伸びたものと思われます。

また、昨年度実施した木工グループのボランティア活動実績表も掲示しました。

夏休みのボランティア活動

も例年通り計画されており、それらの完遂と学園祭に向けた作品制作がこれからの課題です。



KSCイベントぴかぴか隊

国際30期 稲積 義則

神戸で開催されるいろいろなイベントの会場整備や清掃などのボランティア活動に参加し、愛する神戸を盛り上げようと活動しているグループです。毎回、OBとともに150人規模で活動しており、神戸市から多くの感謝状もいただいています。

今年の4月には、雨模様の中、「神戸まつり」の会場整備や清掃などのボランティア活動に参加し、出演者や観客から「ありがとう」と声掛けもされました。これから、「神戸マラソン」「阪神淡路大震災1.17のつどい」「ルミナリエ」などでのボランティア活動に参加します。皆さんと一緒に神戸を盛り上げませんか。



救急救命クラブ

食文30期 井階 英幸

突然のけがや病気におそわれた人を速やかに助けられるように！ AEDを用いた心肺蘇生法や、三角巾による包帯法の応急手当の訓練を行って、市民救命士の資格取得を目指しています。

ボランティア活動報告会や学園祭では救護班を担当し、各クラブへの救命講習、外部の活動では、市内イベント（神戸マラソン・ルミナリエ・明石海峡大橋ウォーク・神戸まつり・世界パラ陸上）の救護ボランティアや市立中学校、大学への救命講習などに参加し、活動の場を広げています。



神戸2024世界パラ陸上競技選手権大会でのボランティア体験談

東アジアで初となる、神戸2024世界パラ陸上競技選手権大会（第11回）が神戸総合運動公園ユニバー記念競技場にて5月17日から9日間開催され、大きな盛り上がりの中で幕を閉じました。シルバーカレッジからも多くの方が大会ボランティアとして参加され大会の盛り上げに貢献しました。本誌ではボランティアに参加された方々の体験談をお聞きました。

選手の素顔に触れた体験

国際30期 橋倉 正司

私は、活動した6日間のうちの4日間はドーピング・コントロール室の受付業務、2日間はメディアセンターで選手へのインタビューなどに携わりました。ドーピング検査では、予め検査を行う種目を決めて、その優勝者に対して行う場合がほとんどで、今回も1日当たり15人程度の選手が検査を受けたにすぎません。

私の行った受付業務は、選手と付添人の氏名を記録し、彼らの入退出を厳格に管理することです。ドーピング検査の手順はとても厳格で、レース後の最初の尿を採取して検査するため、尿の採取に平均約2時間かかります。特に印象に残ったことは、最初に入室した時、不安そうな表情だった選手が、尿の採取後に退出する際は、安堵して、とても良い笑顔を浮かべていたことです。世界トップクラスの選手の素顔に触れることができて、大変有意義な時間を過ごすことができました。



ドーピング検査室入口

私の生徒さんは、どこ？

国際30期 濱野 真己子

私は来場者誘導サポート係で、パラ陸上観戦に招待された小学校、中学校、特別支援学校の児童、生徒を総合運動公園駅から競技場の座席まで誘導する活動をしました。応募のきっかけは、カレッジの友達からボランティアが不足していると聞き、陸上の世界大会という貴重な機会にぜひ参加したいと思ったことです。

学校ごとに先生に引率されて駅に着くので、生徒を競技場まで案内することは簡単だと思っていましたが、大規模校では、乗る電車をずらせたり、違う車両で来たりするので、自分の担当する学校の生徒がどこからどこまでいるのかを把握するのが大変でした。生徒たちが、目の前やスクリーンに映る選手たちを一生懸命に応援する姿に感動しました。

うれしかったことは、特別支援学校の生徒が、手作りのクッキーを「ありがとうございます」と言って、手渡してくれたことです。そして、大会組織委員長の増田明美さんとツーショットで写真を撮ってもらったことです。



笑顔で迎える世界の舞台

国際30期 春田 薫

私の仕事は「輸送サポート」でした。専用バスで競技場に到着する選手を笑顔で迎え、バスに車いす用の板をかけること、競技後にホテルに帰る選手の車椅子をバスに固定するのが仕事の内容です。

車椅子に傷がつかないように慎重に固定します。海外からの選手たちは髪をおしゃれに大きく結っていたり、帽子を被っていたり、香水がボディオイルなのか華やかな香りをふりまいてにぎやかに登場する方も多く、私たちも大きく手を振って賑やかに「ハロー！頑張って！」とお迎えしました。私は初めてのスポーツボランティアでしたが、周りの人は「東京オリンピック行きました」「東京マラソンでは給水担当でした」という方や東京、長野、福岡と遠方から来ている方が多かったのも印象的でした。パラスポーツの楽しさを知ることができて、ちょっとした国際交流もできました！楽しかったです。



パラ陸上に集まった選手とボランティアに拍手！

国際30期 平田 洋子

私は、総合運動公園前で、送迎バスから降りてくる選手に会場案内したり誘導する仕事を7日間担当しました。

「こんにちは」「Have a nice day!」と選手に声をかけると、笑顔やハイタッチがたくさん返ってきました。表彰からの帰り、メダルをかけている選手に「Congratulations」と拍手をすると、とても喜んでくれました。

印象に残っているのは、スマホを忘れて混乱していた中国選手に、言葉は全く通じませんが、一緒に探して見つけることができた時は心から感謝されました。また、槍投げのたくましい選手をサブトラックまで車椅子を押して行き、投げる槍をひたすら拾ったこともありました。彼女が銀メダルを取ったと知って、とてもうれしかったです。

多くの国のさまざまな障がいのある選手だけでなく、全国から集まってくれたボランティアの仲間と触れ合うことができて、本当に素晴らしい時間を過ごすことができました。



特集 第29回学園祭に向けて 『心と心の輪、広げる絆、繋ぐ学園祭』

第29回学園祭が10月12日（土）に開催されます。今年は近隣の方も参加可能となり、来場者は昨年を大きく上回ることが予想されます。学園祭総合委員長から学園祭の概要や準備状況について紹介していただきます。

【学園祭総合委員長】

生環30期 行本 益美

生環30期 吉田 良子

在校生の皆さん、今年の第29回学園祭は10月12日（土）に予定されています。学園祭は神戸市シルバーカレッジの行事としては最大のイベントで、日頃の学習やクラブ活動、ボランティア活動などの成果が披露されます。

今年の参加団体はステージが22団体、出店・展示が26団体、合計48団体となりました。

昨年の学園祭は、在校生とその家族、卒業生の参加で開催されました。今年は新型コロナの感染症法上の位置づけが5類となってから1年を経過し、近隣の方々にも来場していただけるようになりました。そのため来場者数は去年を大きく上回ることが予想されます。安心・安全な学園祭を楽しんでいただけるような体制作りに取り組んでいます。

学園祭の運営組織は、総務委員会、駐車場委員会、バザー委員会、ステージ委員会、出店・展示委員会で組織されています。そして1年、2年の各クラスと各クラブから

の支援者の方々も加わり、学園祭に向けて大勢の力で準備を進めています。

また、委員ではなくても、バザーに出したいけどこんな物でもいいの？とか出品したい物がたくさんありますよと声をかけてくださる方もいました。2学期に入るとバザー出品物の受付が始まります。多くの出品のご協力をよろしくお願いします。

キャッチフレーズも募集してきました。40通の応募がありました。思わず頷いてしまう作品、クスッと緩む作品等々力作揃いでした。その中から第2回委員長会議の投票で優秀賞に、生環30期岸本さんの「心と心の輪、広げる絆、繋ぐ学園祭」が決定しました。

カレッジ在校生、卒業生、取り巻く大勢の方々の繋がりが見事に表現されたキャッチフレーズだと思います。投稿してくださった皆さん、ありがとうございました。

暑い8月が終わり、2学期に入るとすぐに10月12日学園祭当日がきます。良かった！楽しかった！と出演者、支援者、来場者の皆さんの思い出に残るような学園祭を作ていきましょう。学園祭に向けてさらなるご協力をよろしくお願いいたします。

第29回学園祭 キャッチフレーズの決定

優秀賞 「心と心の輪、広げる絆、繋ぐ学園祭」

（生環30期 岸本 一二三）

佳作 「重ねた想い 共に輝け 学びの祭典」

（音文29期 辻 順子）

佳作 「やらなくちゃ！ 今こそ輝き放つ時」

（美工30期 国政 裕子）

キャッチフレーズには40通の応募があり、上記の優秀賞1点、佳作2点が審査の結果選ばれました。優秀賞を受賞された岸本さんから、キャッチフレーズに込めた願いを紹介していただきます。

優秀賞を受賞して

生環30期 岸本 一二三

昨年5月に新型コロナの感染症法上の位置づけが5類となり、世の中、マスクを外されている人を多く見受けられるようになりました。少しずつもとの状態に戻りつつあることを喜んでいます。そんな中、われら神戸市シルバーカレッジにおいては第29回学園祭が開催されます。

これは在校生が普段の勉学そしてクラブ活動、ボランティア活動などで日頃から修得、練磨した成果を一堂に披露する機会です。またこれらの発表については学園祭委員ほかの皆さまも一体となり、それぞれのチームワークでもってみんなが心と心を合わせて一致協力して作り上げていきます。そうす

ることにより多くの人との信頼と絆を広めることとなり、その輪が大きくなっていきます。この「心と心の輪と絆で学園祭を繋げていく」ことを第29回学園祭のキャッチフレーズとさせていただきます。

そして、卒業生の方々やご家族の皆さまにもご来場いただき、ともに喜びまた楽しんでいただきたいと思います。

さあみんなで一緒にこの伝統ある学園祭を繋げてまいりましょう。



ステージ出演団体

出演順		出演団体名
午前	1	ミュージ研
	2	KSCフルートクラブ・フルーツパフェ
	3	KSCマジック同好会
	4	KSCオカリナチーム
	5	あかりの会
	6	手話ソング
	7	KSC謡曲クラブ銀謡会
	休 憩（換気）	
	8	混声合唱団コーロKSC
	9	ザ・カスタネット
	10	KSC男声合唱団
	11	KSCライトミュージックウィズユウ
	12	音文 3 学年合唱
昼 休 み		
午後	13	KSCアロハハワイアンズ
	14	KSCハーモニカグループ
	15	KSCフォークソングクラブ
	16	KSC社交ダンスクラブ
	17	KSCオールディーズクラブ
	18	KSCフォークダンスグループ
	休憩（換気）	
	19	KSC民謡同好会
	20	KSC三曲会
	21	KSC太極拳クラブ
	22	KSC英語クラブ

最新の情報は配布される「プログラム」等で確認ください

展示・バザー・出店団体

参加方法	団 体 名	開催場所 (※は 2 階)
展 示	パソコンクラブ	学習室 7 ※
	NPO法人社会還元センター グループわ	わ 会議室 ※
	KSC写真クラブ	ふれあいホール
	KSC書道部	
	KSC川柳くらぶ	
	KSC野鳥と自然観察会	
	俳句クラブ	
	美工29期（絵画・陶芸）	
	美工30期（絵画・陶芸）	
	美工31期（絵画・陶芸）	
	絵手紙同好会	
	KSCインターネットクラブ	
	救急救命クラブ	
バ ザ ー ・ 出 店	学園祭バザー委員会	学習室 1・2 ※
	絵画ボランティアグループ	学習室 3・4 ※
	陶芸ボランティアグループ	
	KSCボランティアグループ茶道部	和室 ※
	KSC有機野菜をつくる会	中庭 雨天時は玄関横
	「ガーデニング」グループ	
	園芸専攻（29期・30期・31期）	
	ボランティア木工グループ	ふれあいホール
	ケナフの会	
	ボランティア・クッキーの会	
	シルバーケーキの会	
	ボランティア・グループ「こども文化」	
	食文30期	調理実習室





共通授業 川邊 暁美 先生

神戸市生まれ。神戸女学院大学卒業後、NHK神戸放送局ニュースキャスター。1989年、全国初の県政のスポークスパーソン「兵庫県広報専門員」として、広報・講演活動を展開。2008年、声と言葉のコミュニケーション力、表現力UPをベースにした人材育成、コンサルティングを行う「言の葉OFFICEかのかん」を設立。「伝わる声と話し方」をトータルで指導できる講師として、講演、セミナーや企業研修などに幅広く活躍中。神戸女学院大学非常勤講師。

インタビュー当日は、川邊先生の「声で握手♪相手の心に響く話し方」と題した3年生の共通授業があり、一般の聴講者や1・2年の聴講生でカレッジホールはほぼ満席状態のなか、ご自身の経験を踏まえて伝わる話し方のポイントを講義していただきました。

Q 現在の活動をされるきっかけを教えてください

皆さんはNHKでアナウンサーをするくらいだから幼い頃からきれいな声だったのでしょうか、とお思いかもしれませんが、実は声にコンプレックスがあり、無口で引っ込み思案な、いじめられっ子でした。転機は高校1年生の音楽の時間に先生からの「個性的な声やなあ」「君は君のままでええんやで」という言葉でした。それからコーラス部に入り声が出るようになると周囲から存在を認められるようになり、その頃から言葉や声で伝えることを仕事にしたいと思うようになりました。

Q 兵庫県の広報専門員の時に阪神・淡路大震災を経験されたわけですが一番印象に残っていることは何ですか

震災の2日目になって、サンテレビやラジオ関西から災害対策本部の情報を発信できるようになりました。同じように被災した人間が伝えていたからでしょうか、その時の反響は大きく「あなたの声で安心した」「川邊さんの姿を見てもう大丈夫だと思った」などたくさんのお電話をいただいたのが印象深く心に残っています。

Q 現在の活動は大きく分けて、研修・講演と朗読の2本柱ですが、それぞれどういったことを伝えたいですか

研修・講演で伝えたいことは、声や言葉が変われば伝わり方が変わる、伝わり方が変われば人生が変わるということです。朗読では、日本語の美しさを未来に伝えたいということ、それともう一つ朗読は健康長寿につながる、つまり口元のフレイル*対策になるということです。

* 健康な状態と要介護状態の中間の段階を指す（厚労省HPより）

Q 朗読をライフワークにされていますが、朗読する際に心がけておられることを教えてください

こちらにも朗読クラブがあるとお聞きしていますが、私が一番大切にしていることは、作品を読み込んで理解することです。その際、私はいきなり声に出さないようにしています。声に出すとそれがベースになってしまいます。作品を何度も読み込んでその背景や作者の心情を読み取っていく、作者は何を表現したかったのかを解釈することです。そのうえで、読み手を通して作品の世界を聴き手に届けることです。

Q 本学の学生に伝えたいことやアドバイスがあれば教えてください

相手に合わせて言葉を選んで、伝わるように伝えること。こちらの学生さんは地域で積極的に活動されていると聞いています。その際いろいろな場所や年齢の人に合わせた伝え方を身に付け、引き出しを増やす工夫をしていただければと思います。

また、身近な人とのコミュニケーションこそ、主語を入れ聞き取りやすい言葉で伝えることが大切です。

Q これまで活動されてきた中で印象深いことについてお聞かせください

NHKを退職する最後の日、番組を降りるアナウンサーは最後に「今日が最後になります」などのコメントを入れるのですが、私は最後のあいさつをせずにいつものように番組を終えました。すると、直後に電話が掛かってきました。目の不自由な方から「毎日あなたの声を楽しみに聞いていた。番組の改編期なので心配でしたが、さよならを言わなかったので、来週からも楽しみです」という電話でした。今日が最後の番組と伝えたと相手の方は絶句してしまい、この時ほど後悔したことはありませんでした。声と言葉を受け止めてくれる人の存在に心を寄せることの大切さを胸に刻みました。

Q これからの夢や、やりたいことを教えてください

歴史ある建物が次々姿を消しているの、そういった建物の活用方法の一つとして朗読をすることで建物の価値を感じてもらう活動をしています。最近では舞子公園の中にある国の登録有形文化財の「旧木下家住宅」で私の趣味でもある着物を着て朗読会を開催しました。ただ、こういった建物は一般利用するのにハードルが高く、良い情報があればぜひご紹介ください。



（国際31期 安田、浅井）



音楽文化専攻 松村 公彦 先生

1962年神戸市生まれ。大学在学中より、大阪シンフォニカー（オーケストラ）打楽器奏者として活動。マリimbaを宮本慶子、打楽器を八田耕治の両氏に師事。1985年大阪芸術大学演奏学科打楽器専攻科卒業。卒業と同時に神戸市立神戸西高等学校（現須磨翔風高校）教諭。1995年より『和太鼓松村組』を立ち上げ現在に至る。

2001年和太鼓奏者として独立し、『和太鼓松村組』に専念。平成13年神戸市文化奨励賞、平成15年兵庫県芸術奨励賞、令和2年神戸市文化賞を受賞。現在国内外での和太鼓演奏会、作曲、技術指導、講演会など多方面で活躍中。

Q 先生のご経歴について教えてください

大阪芸術大学 演奏学科 打楽器専攻 入学。卒業後は神戸市で高校の教員として16年間教鞭を執りました。退職後は和太鼓奏者として独立し、『和太鼓松村組』として現在に至っています。

Q 先生のこれまでの活動されてきた内容について教えてください

神戸文化ホールで定期公演を続け、神戸を拠点に始まりました。その後、ホール同士の繋がりを通じて、徐々に全国へと広がりました。演奏活動が中心ですが技術指導も行いました。

Q 先生の和太鼓との出会いについて教えてください

大学の打楽器はクラシックでしたが、同期の友人が和太鼓奏者として活躍しているのに深く感動しました。高校で教育の一環としての和太鼓クラブを創り、指導しながら私自身ものめりこんで行きました。

Q カレッジで教えることになった経緯と授業内容について、また、授業で本学の学生に伝えたいことなど教えてください

私のマリimbaの師でもある宮本慶子先生が新しく和太鼓の授業をカレッジに提案してくださったのだと思います。8期生が3年生の時から和太鼓の授業が開始されました。

学生さんが和太鼓を打たれた時に、その響きに楽しさ・驚きを感じられるのを見るのが楽しいです。打つ人によって音が違ってきます。いつも上手く打てなくても、たまにスイートスポッ

トに入ってびっくりするようないい音ができます。もっとうれしい驚きを感じて欲しいと思います。

リズム感がない、体力がないと心配な方も大丈夫です。ご自分のペースで、卒業演奏会をめざしましょう。

和太鼓の楽しさ、可能性を深く感じてください。和太鼓に取り組みながら、ぜひプロの演奏会に行ってください。見方が変わってきます。



Q 先生は和太鼓奏者として国内外で幅広くご活躍されていますが、和太鼓の魅力について、また、これまで活動されてきた中で思い出に残る内容についてお聞かせください

昔から体を動かすことが好きで、スポーツ的な要素と好きな音楽が合体したのが和太鼓だと思います。

和太鼓の演奏中に、酸欠状態で意識を失いそうになるくらいの極限状態で打った音がホールで響いて、観客のざわめきとともに大きな波となって返ってくる感じは、鳥肌が立ち、言葉では言い表せないものがあり、とても印象に残っています。

海外公演では、大きな太鼓をぶつといバチで打つそのものが珍しくて喜ばれ、見ただけでざわめき、鳴らした時には忘れられない大歓声がおこりました。

和と洋が合体した音を創りたいという考えから、和太鼓がソリストとしてオーケストラと共演する機会もありました。和太鼓が他の楽器に引けをとらない大きなエネルギーと存在感がある中で、和と洋とのすばらしい調和を表現できたことが印象に残っています。

（音文31期 横山、安田）



KSC有機野菜をつくる会

生環30期 山田 カ

よく“有機野菜と無農薬野菜は同じですか？”と聞かれます。勉強会資料をひもとくと、無農薬野菜は栽培期間中に農薬を使わない、また国の定める規格もありません。一方、有機野菜（オーガニック野菜）は栽培に際し2年以上前から農薬、化学肥料の使用を禁止、天然物質由来の肥料（ぬか、油かす、草木灰など）を使用し栽培します。健康、安全、環境面で良い反面、自ら自然肥料を作る、また育成障害の予防に畑を休ませる、輪作を行う、混植の実施などが必要です。輪作とは、同じ場所に同じ科目の野菜を植え続けなくて、計画的に科目を変えて植えることです。混植とは、異なる野菜を株と株の間に植えることです。例えば生姜と里芋、生姜は日陰を好み里芋の大きい葉が夏の日差しを防ぎます。（写真）



手間暇が掛かるために生産量も少なく、結果として市場では価格は高くなります。気候変動の本によると、60年前の農業方法を継続した場合、現在と同じ量の食料を作るのに2.5倍の農作地が必要とのこと。人口、食糧問題で工業型農業は避けられませんが自然主体の有機野菜も残していくべきかと思えます。

1つ環境に関し農園のお話をしますと、昨年、悔しいことに栽培中のトモロコシをアライグマに全部食べられました。生活環境の授業によると、元々米国原産で日本にベトナムなどとして連れて来られて繁殖、神戸市では毎年約1000匹以上捕獲されるとのことです。近年の森林伐採など環境変化でエサを求め人里に来るので動物だけが悪いわけではありませんが、ネット対応などでさらに手間がかかるのも現実で悩ましい限りです。



さて、このように手間暇がかかる有機野菜ですがその味を皆さまに年に1度味わっていただける機会が10月の学園祭です。今年はコロナ禍前のように一般の方も多く来校されると予想し、メインのサツマイモの作付けを増やし、しょうが、里芋、九条ネギなども予定します。近年の猛暑は作業者には厳しいですが野菜は多くの太陽光を浴び順調に育っています。スーパーと違い形は少々悪く、大きさバラツキはありますが、ぜひ自然の美味しさを味わっていただければと思います。学園祭当日は晴天を祈りながら収穫まで全員で作業を行いたいと思います。

ボランティア木工グループ

“世界にひとつだけの木工品を作ろう！”

美工30期 米谷 武芳

ボランティア木工グループは、「1.17阪神・淡路大震災」の復興支援を目的に1995年7月に設立されて、今日まで29年間活動を継続しています。

現在、在校生・OBを合わせて約90人の会員がいて、カレッジの南側にある「木工室」で製作活動をしています。木工室には、各種の電動機械・工具などが設置されており、これらを安全・適切に使用してさまざまな木工品を日々楽しく製作しています。

対外活動としては、学校行事や地域社会のボランティア活動に参加をしています。

学校行事の「ボランティア活動報告会（6月）」「学園祭（10月）」では、在校生とOBが日頃から製作している木工品を展示・販売しています。会員一人ひとりが持ち味を生かした特色のある木工品を多数出品していますので、見るだけでも十分楽しんでいただけます。まだの方は、ぜひ一度ご覧ください。



地域のボランティア活動では、連休や夏休み期間を中心に児童館や学校で実施する「木工教室」などのイベントを支援しており、参加した子供たちがモノ作りを楽しく体験できるようにサポートしています。活き活きて楽しそうな子供たちに接すると、支援している私たちの気持ちも若返り、笑顔になります。

また、学内・学外からの木工品の製作・修繕依頼があれば対応しており、大変感謝されています。



初心者の方であっても、「電動工具安全取扱講習」「木工製作実習」を通じて、「機械・工具の安全な使用方法」や「木材の適切な取り扱い方」などが習得できますのでご安心ください。また、先輩やOBから適切な助言をいただけることも大変心強いものです。

あなたも木とふれあい、世界にたったひとつの木工品を作ってみませんか。

Do It Yourself (DIY) !

歴史探訪クラブ

健康30期 杉本 康彰

歴史探訪クラブは、ウォーキングを楽しみながら、普段はまちかどに埋もれて気がつかないような郷土の歴史に触れる「歴史探訪」と、クラブ員相互の「親睦と友和」を図るクラブです。毎年4～12月に6回の例会と、2回の日帰りバス例会を予定しています。

それでは、6月に実施した例会「西宮神社と西宮郷酒蔵巡り」の様子をお話しましょう。

朝10時に145人が6班構成で阪神西宮駅を出発！
＜西宮神社へ。いよいよガイドさんの説明が始まります＞

- ・『この大練堀(おおねりべい)は日本の三大大練堀と言われて～』 「へえ～」
- ・『続いてこちらの表大門は、別名赤門とも言われ、豊臣秀頼の寄進と伝わる国の重要文化財に指定されています。また、毎年恒例の十日えびすには、福男を目指してここから本殿へ一斉にスタート～』 「ほう～」
- ・『本殿には福の神えびすさまが鎮まりになっていますが、えびすさまを崇める信仰が、西宮で発祥した人形操りや謡曲狂言などの芸能とともに、全国津々浦々へ広まって～』 「そうなのかあ～」

＜南門から出て、次にガイドさんはえびすさま鎮座跡へ＞

- ・『ここには、鳴尾の浜から引き揚げられた漂着神とも伝えられるえびすさまを西宮神社へ移動中、ここでお昼寝されてなかなか起きないのでお尻をギュッと捻って起こしたという「おこしや伝説」が伝わる～』 「ほんまかいなあ～」

＜続いて、ガイドさんは宮水発祥の地一帯へ＞

- ・『宮水とは、六甲山地からの3つの伏流水が混ざったミネラルが豊富で不要な鉄分が少ない酒造りに適した水です。この宮水は、西宮の酒蔵や近在の酒郷にも供給されていました』 「なるほどそうなんやあ～」

＜いよいよ、ガイドさんと白鹿記念酒造博物館に到着＞

- ・『灘の伝統的な日本酒造りの工程と酒造用具などを、映像や音声ガイドとともにご見学ください』。うまい酒をつくる4つの秘密は、良い水＝宮水、良いお米＝山田錦、寒造りに不可欠な風＝六甲おろし、すぐれた酒造り人＝丹波杜氏です。



＜博物館でしっかりお勉強した後は、いよいよお待ちかねの白鹿クラシックス！＞

- ・お酒に関するお土産が販売され、試飲もあります。私も一杯、試飲しました！



解散後は、それぞれ仲間と三々五々昼食などに向かいました。2時間半で8,000歩の歴史探訪でした。

KSCバドミントンクラブ

国際30期 小島 賢司

多くの方が子供の頃から今までにバドミントンラケットを振ったことはあるのではないのでしょうか。公園でお子さんと、またグループで、ワイワイと楽しむ光景をよく見かけます。このように老若男女、一緒に楽しめるのがバドミントンの良さです。

また、レジャーとしてのバドミントンとスポーツ競技としてのバドミントンのギャップが大きい点も特徴です。バドミントンは『緩急の競技』と言われる。スマッシュ初速の世界ギネス記録は、昨年のインドのランキレディ選手の『565km/h』です。そしてネット上に止まるようなヘアピンは、ほぼ『0km/h』で相手側のコートに落ちます。このように世界最速競技であり、最も遅い競技でもあります。シャトルコックは、水鳥（ガチョウ）の羽で作られており、自然界のものをそのまま競技に使っている点も特徴です。水鳥は、主に中国で食用に飼育されており、その羽を活用しています。トーナメント用シャトルの羽は、一羽の水鳥から4枚しか採れないそうです。

クラブについてお話します。今春は、14人の新入会員を迎え、総勢31人（男性10人、女性21人）となりました。練習は放課後のカレッジホールとしあわせの村体育館で週1回程度行っています。OB男性（元実業団）、OB女性の2人のコーチにより優しく親切な指導が受けられますので初心者でも安心して参加できます。バドミントンは、体力＜技術＜頭脳のスポーツです。老若男女、初心者、経験者、誰でも自分のペースで楽しむことができます。室内競技ですので天候に左右されず、日焼けも気にせずいつでも楽しめます。



また、6月に座学「バドミントンの基礎」も教室で開催しました。懇親会も適宜開催し、会員相互の親睦を深めています。先日の歓迎会も中華料理～カラオケまで大いに盛り上がりしました。



1年前に思いつきで入会した30期生(初心者)の感想です。『自分の年齢・体力・運動神経も考えず入会し、今に至っています。その思いつきが現在、体力と健康に良い影響を与え、楽しさと充実感をもたらしています。クラブでの練習や試合を通じて新しい友人との出会いもあり、精神的にも大きな満足を得ています。技術の向上には疑問が残りますが、日々の生活に活力を与えてくれる貴重な時間となっています』

一緒にカレッジライフを楽しみましょう !!!

音楽文化専攻

音文30期 高野 明子

5月の新入生歓迎交流会を終え、今、クラスは学園祭に向けての合唱練習の真っ最中です。音文は学年で協力し合いながら取り組む活動が大きく年に3回あります。新入生歓迎交流会、学園祭、卒業発表会と歓送会です。

一年生の時は、入ったばかりの歓迎交流会でいきなり合唱!!と少し驚きましたが、みんなで試行錯誤を繰り返しながらもなんとか終わることができ、その後は行事が終わるたびにクラスの絆が強くなっていくのを感じました。今年は、自分たちが中心となっていていろいろの行事に取り組まなくては行けません。去年とは違った緊張感を感じながらもみんなであれこれ話し合い、楽しみながら取り組んでいます。クラスでの横の関わり、先輩後輩との縦の関わり、そのどちらをも大切にしながら、深めていけるのは音文ならではの楽しみです。

そして音文の授業はとてもバラエティーに富んでおり、合唱指導はもちろん、いろいろな楽器にも触れることができます。つい最近はお琴の授業があり、爪の付け方から教えていただき、緊張しながらも興味津々で弾かせていただきました。最後は「さくらさくら」の一節を全員弾くことができました!!

拙い演奏のあと、目の前で先生方が演奏してくださった琴の音色はとても美しく「雅」で、しみじみと贅沢な時間だなあと感じました。

このように音文は特別授業でプロの先生方による楽器演奏や歌唱の鑑賞をさせていただく機会がたくさんあります。さまざまな音楽に触れて見て聴



いて自分で体験して、これからもっとわくわくしながらクラスの仲間と充実した毎日を通していきたいと思っています。

食文化専攻（守から破へそして離へ）

食文30期 三谷 一之

食文化の名の通り料理実習だけではなく、料理の歴史的・地理的背景、栄養バランス、食材名の由来、季節に応じた食材の選び方など広範囲にわたっており、調理と連結した内容なので非常に分かりやすく学んでいます。難点は学んだことを忘れやすくなってきている点でしょうか？

入学当初は、班以外の繋がりがあまりなかったのですが、有志での食事会、打上会、一年総まとめ調理、2年時の班替え、歓送・歓迎会を通じて、クラスの和がなお一層増しており喜ばしいかぎりです。



特に、コロナ禍から4年ぶりに復活した総まとめ調理は、特筆すべきものでした。各班での献立決定～レシピ作成～食材手配～調理の時間配分と役割分担～食器の選択

～盛り付け～経費支払い～会食部屋の装飾など、すべて学生主体で立案・運営を行いました。具体的なメニューは、

主食 : ちらし寿司・タコライス

主菜 : えびの奉書揚げ・油淋鶏・だし巻き・牛肉の野菜巻き・蒸し鶏・鮭のホイル焼き・牛肉のたたき・白菜としめじのクリーム煮

スープ : わかめときのこのスープ・かす汁

副菜 : 野菜サラダ

デザート: 杏仁豆腐・シュークリーム

美術室をレストラン風に仕立てたビュッフェ形式で、三ツ星ホテル並みと自画自賛いたしました。すべて盛り付けるとかなりの量でしたが完食でした。ご招待した担当の先生からも、絶品だと賞賛をいただきました。ぜひ食文化の伝統行事として、今後も継続されることを望んでいます。

園芸専攻（人気回復へ、園芸の魅力）

園芸30期 戸嶋 邦彦

今年度の園芸専攻への応募人数は定員割れでした。何でやろ何でやろ、昔は抽選で落選する人もいたのに……。

「園芸専攻は水やりで毎日登校せなあかん」、これ誤解です。

確かに毎日農園や花壇で出会う人、他の専攻よりも早く登校する人の多さ、でも、園芸専攻すべて



カレッジの『トトロ』も、園芸専攻が整えています

の人が当てはまっているわけではありません。趣味や孫の世話、自分の健康状態、介護や仕事などそれぞれの都合に合わせて、可能な範囲で協力しながら対応しています。

園芸って子育てと同じといわれます。自分が手をかけた分だけ成長に跳ね返って来ます。放任はダメですが、過保護はもっとダメです。これらの体験をカレッジの農園や花壇で実践して、失敗経験を積む良い機会です。自分ちでは失敗したくないですからね。

人気回復を願って、30期生から聞き取りした園芸の魅力のいくつかを記します。

- ・経験豊富な専門家による指導やアドバイスが受けられます。
- ・自分たちが農園で育てた新鮮野菜や新鮮果実を、おいしく口にすることができます。
- ・班はもちろん、学年を超えたコミュニケーションの場が農園や花壇に存在します。
- ・園芸活動を通じて心身ともに健康になります。
- ・自然や季節変化などを園芸活動や成果物を通して感じ取れます。

この原稿が、少しでも人気回復に繋がりますように……。

【情報誌編集委員会より】

写真の「トトロ」は、2023年9月(219号)のP12 トピックス「(トトロ)これはどこに?」でも紹介されています。

どこに? の答えは……「講師用駐車場の西側」です。

韓国 啓明（ケミョン）大学との交流会に参加して

国際交流友の会 代表 寺沢 優一

昨年、韓国 大邱(テグ)市から神戸市を通じて交流会の招待があり、前田学長とカレッジ学生2人が啓明大学を訪問しました。今年5月9日には、国際交流友の会の総勢10人が啓明大学を訪問して、大変有意義な交流会を再度もつことができましたので報告します。

1. 交流会開催の経緯

昨年、前田学長とカレッジ学生2人（国際交流友の会クラブ員）が訪韓し、啓明大学との交流会に参加しましたが、その後も訪韓したクラブ員と通訳でお世話になった啓明大学生との交流が続いていました。今回、国際交流友の会のサークル活動の柱である外国人との交流として、啓明大学の学生の皆さまと交流させていただくことを提案し、訪問に繋がりました。また、韓国が高齢化社会を迎えているため、啓明大学もシルバーカレッジと同様の生涯教育機関に興味をもっておられ、今回の計画に協力してくださいました。

2. 交流内容

(1) 大学キャンパス見学

重厚な校舎、壮大なパイプオルガンのある礼拝堂、李氏朝鮮時代の貴族(両班)屋敷などを見学しましたが、スケールの大きさに驚くばかりでした。音楽部の教授によるパイプオルガンで日本の「故郷」と韓国の「アリラン」の演奏を聴かせていただき感動しました。



(2) 交流会

「日本の伝統的な遊び」である手遊び、折り紙、紙飛行機、福笑いを紹介し、一緒に楽しみながら交流を行いました。折り紙ではクラブ員が一人ひとりに折り方を教え、素晴らしいコウノトリ(折り鶴)を折ることができました。日本語を話せる方が多いので交流会で実施した日本語講座では、方言としての「神戸弁」を披露し、大変興味深く聞いてもらいました。最後にクラブ員のハーモニカ演奏に合わせて、「故郷」と「アリラン」を合唱して、大いに盛り上がり、交流を深めることができました。



3. おわりに

交流会の前日にホテルのロビーで深夜まで「日本の伝統的な遊び」のリハーサルを行ったこと、釜山やソウルの観光、海鮮・焼肉・参鶏湯（サムゲタン）に舌鼓をうったことは良い思い出です。さらに同行した会員の親睦を一層深めることができ、大変有意義な交流会でした。

文芸サロン

《俳句クラブ》

マネキンを積むトラックや夏の夜
父の日やカレーライス辛口は
百日紅父の饒舌黙らせる
紫陽花にぬつと顔出すレトリバー
父の日の肩甲骨をほぐす音
形見なる時計身に付け登山道
黒南風や血痕の染み掛軸に

《川柳くらぶ》

見上げれば微笑み返すお月様
お久しぶり愛想ふりまき吸い寄せ
選挙力一振りまく笑顔閉じて降り
焼き上がり苦労苦心が窯を出る
わたくしに生きがい問われ 黙りこむ
三分の二カーテン閉じる私です
ニユースです寡黙な父が明朗に
出来栄えよりもプロセス楽しもの作り
紫陽花に惑わされてる蝸牛
振りまいた金も愛想も底がつき
このニユース信じていいか問いながら
マスクとれ破顔一笑コロナ果て

《応募作品》

進物にモリタニアのタコ贈る
いただいたタコを家族で分けて食べ
シェフの味値段に入るワクワク感
なつかしや妻のエクボがいまメタボ
やな予感妻が敬語で返事する

文芸サロンへの投稿や爽風への
ご意見・ご感想はこちらから



江 不 正	江 不 正	土 屋 博 子	安 田 維 之	安 田 維 之	濱 田 一 歩	濱 田 一 歩	千 足 千	千 足 千	北 川 都	北 川 都	渡 辺 か お る	渡 辺 か お る	佐 藤 眞 巧	佐 藤 眞 巧	名 定 博	名 定 博	奥 山 繁 男	大 高 松 男	中 井 芳 樹	村 上 泰 民	千 足 恵 美 子	佐 野 貴 代 美	谷 口 裕
-------	-------	---------	---------	---------	---------	---------	-------	-------	-------	-------	-----------	-----------	---------	---------	-------	-------	---------	---------	---------	---------	-----------	-----------	-------

